

令和4年度 高知県文化芸術振興ビジョン評価委員会（第2回） 概要メモ

日時：令和5年2月13日（月）14:00～16:00

場所：高知県立高知城歴史博物館（高知市追手筋2丁目7-5）

出席者：＜委員＞

宮田委員長、川鍋委員、谷委員、都築委員、西田委員、松本委員、吉澤委員
小林委員（オンライン）、天野委員（欠席）

＜事務局＞

＜議題＞

- （1）高知県文化芸術振興ビジョン行動計画の令和4年度事業進捗状況について
- （2）令和5年度当初予算等について

＜意見交換＞

（1）に対する意見

委員	p25 土佐和紙技術伝承事業の人材育成について、技術伝承者の育成よりも、原材料を生産している方の高齢化、地域の過疎化が問題と感じており、生産者の現状を変えないと事業の振興に繋がらないと思う。現在の町では、ボランティアを募集し、障害者施設に楮 <small>こうぞ</small> の皮を剥ぐ作業をお願いしている。原材料も含めて土佐和紙の振興だと思うので、地域にヒアリングを行い連携することが重要だと考える。
事務局	土佐和紙総合戦略では、原材料も含めた全体の振興に取り組んでいる。原材料の生産に文化庁の事業を導入し、県内の技術者に上質な材料が届く流れをつくっている。土佐和紙は現在ユネスコに登録されている紙と同等の価値があると感じており、工業振興課とも協力しながら登録に向けて取組を進めていく。
委員	五台山の木々を伐採いただき嬉しく思う。 高知城について、舗装されているところと舗装されていない砂利道とがある。二ノ丸まで車椅子で行けるように、舗装してほしい。 p12 高知城の石垣には、チャートが見られ、様々な石も使われている。最近石に興味がある方も増えているので、分かるように表示してほしい。 p53 人材育成プログラムは、知事、副知事、担当部長、副部長に受講いただきたい。
事務局	高知城については、バリアが多いと認識しており、今年度は障害者福祉サ

	<p>ービスをされている団体に話を伺い、できることから取り組もうと考えている。また、坂道からの転落等の危険なども十分に検討していく。</p> <p>高知城の石垣は、本県ならではの石垣の築き方も見られ、チャートや高知らしい石、特殊な石も混ざっているため、PRをしていきたい。</p>
事務局	<p>人材育成プログラムについては、秘書課にも情報を共有する。</p>
委員	<p>高知城の耐震化について、地震が起こった際に天守閣が崩れるのか、石垣が崩れるのかをシミュレーションしておく必要があると思う。天守閣が崩れると価値がなくなるのではないか。熊本城では文化庁など複数の省庁が関係しており対応が難しいと聞くが、高知城はどうか。</p>
事務局	<p>高知城は建造物も史跡も文化庁が所管している。専門の方に指導をいただきながら耐震化について進めており、石垣カルテは、本年度は本丸周りが一旦完了する。耐震改修工事を進めるにあたっては、長期工事となり、観光面にも影響があるので、検討・調整したうえで耐震診断、工事を進めていきたい。</p>
事務局	<p>バリアフリーについて、ハード面だけでなくソフト面や人的な対応でできることがあると考えている。</p> <p>二ノ丸までの福祉車両の乗り入れや、事前に相談があった際の車両の乗り入れは十分可能だと思う。</p> <p>県、指定管理者、福祉関係者が一堂に会し、意見交換の機会を設けることにより、バリアフリーを実りのあるものにしていきたい。</p>
委員	<p>障害のある方が天守閣まで上るのはとても難しいと思う。ハード面ではなくソフト面の充実を図った方が面白いと思う。例えば、織り姫というロボットや、VR、メタバース等の、若い世代も興味を持てるコンテンツを活用し、誰もがアクセスできると良いと思う。</p> <p>2月に開催した文化人材育成プログラムは、オンラインと対面の併用で開催したことに加え、スタッフが1名しか配置されていなかったこともあり、オンラインの手際等、準備不足に感じられた。オンラインを活用するのであれば、人員の配置や、オンライン技術の把握、受講者への配慮等への検討が必要だと思う。講座のアーカイブ配信については、現在、撮影した動画をそのまま配信している。受講者数を伸ばすためには、アーカイブ仕様の撮影方法や、撮影した動画を編集して配信する等の工夫が必要だと思う。</p>
事務局	<p>文化人材育成プログラムのオンライン開催については、環境が良くなるよ</p>

	う文化財団と検討していく。
委員	<p>土佐和紙について、重要無形文化財も含め今後展開していくこと、総合戦略も練っていることを聞いて嬉しく思う。</p> <p>全般的に、県事業への参加者や団体が、県の事業により活動が活発になっているなど、そういった事業による影響は分かるのか。県の事業は、県民のため、団体や活動している方の環境を整えるために行っていると思うので、県が独りよがりになっていないか、県民のニーズに合っているのか気になった。</p> <p>また、県の事業は高知市の県立施設を中心に活動している気がする。県全域に文化行政が届いているのか。</p> <p>ミュージアムネットワークのジャンルでないもの、例えば「舞台芸術」などにネットワークはあるのか。県民のホール等が中心となり、ネットワークは組まれているのか。</p> <p>アーツカウンシルの活動は芸事図鑑が中心だと認識しているが、団体へのサポート等はやっていないのかということを知りたい。</p>
事務局	<p>民間で事業をされている方は、県の事業と関係なく様々な活動をされているように感じる。今後もできるだけ団体や県民の方の意見を聞いていきたい。</p> <p>ネットワークは県立の文化施設協議会の事務局を県民文化ホールが担っており、研修会等も実施している。新しい文化施設ができた際は、相談にのる等の支援もしている。舞台芸術のネットワークについてはあまり詳しくないが、民間にネットワークがあるのではないかと思うので、県としてもそういった方々にもお話を伺っていきたい。</p> <p>アーツカウンシルについては、人材育成プログラムや地域の団体のサポート等を一人で担っているため、より色々な団体へサポートできるよう、仕組み等について文化財団と検討していく。</p>
委員	<p>舞台芸術はハードルが高いと思われており、子どもたちへの可能性が開かれていることが重要。舞台関係者と繋がり、その方たちのノウハウや知恵、経験が地域で活かされるような橋渡しを県が担うことで広がるのではないかと思う。</p>
委員	<p>県民文化ホールの補足だが、音響、機器等の技術的な研修や、ホールから出たの野外での演奏会等も行っている。</p> <p>p45 国内外からの観光客は、SNS で情報収集、発信を行っている。海外か</p>

	<p>らの受け入れについては、事故、病気等の問題もあるため、相談窓口等で24時間対応できる体制をつくる必要があると思う。</p> <p>また、外国人へのガイド研修にも、高校生、大学生に補助で参加いただく等、学校教育と連携することで、国際交流に繋がるのではないかと。</p> <p>高知県の遍路の接待文化については、遍路の実態や、本県の特色等が分かれば現代に活かせるとともに、本県の魅力としても映ると思う。</p>
事務局	<p>県内各地で観光ガイドが活躍しており、ガイドがいることで観光客がリピーターとなっているという話も伺っている。</p> <p>学校教育との連携については、観光列車で伊野商業高校の学生が地域の案内をしたり、来年度の博覧会に向けて仁淀川地域では、高校生や中学生がガイドの体験をするなど、それぞれの地域で観光に力を入れて取り組まれている。</p>
事務局	<p>遍路のお接待が心に残り、再度回っていただくということもある。お接待について、どういった取組がなされているのか、実態調査は現在取りまとめ中のため、次回の委員会の際には報告したい。</p>
委員	<p>芸術祭のKAP事業で、助成した団体が自立し、次のステップとして、それぞれの市町村から補助金をもらう等、活動の幅が広がっており、奈半利町はその事例だと思う。他にも、土佐山田のアートリンクは香美市からも補助をもらっている。</p> <p>そういった活動の中で、作家間で繋がりができる。香美市立美術館では「アートアニュアル」という若手の作家の掘り起こしを行っているため、部活動の地域移行についても、相談いただければ協力できることもある。また、すさきまちかどギャラリーも若手の作家の紹介等を行っているので、幅広く適材適所に対応することが重要だと考える。</p>
委員	<p>意見が出た、高知城のバリアフリーのコンテンツとしてVR等の活用にも関係すると思うが、昨年秋に発表があったアニメ産業については、文化国際課としても連携すると良いのではないかと。</p> <p>牧野博士の博覧会は、集客の中心は牧野植物園、佐川町だと思うが、県内の牧野博士由来の場所に、どれだけ人の集客を図っていけるのかが重要だと思う。</p> <p>地域学芸員養成講座について、昨年度須崎市で開催いただき、数回参加したが、講座が終了すると途切れてしまうこともあるため、取組の方向性にもある講座後のフォローアップについても考えてほしい。</p>

事務局	<p>文化芸術の人材については、文化財団のHPに文化芸術団体のリストはあるが、詳細な情報については持ち得ていないため、ご相談させていただきたい。</p> <p>アニメ産業については、産業振興推進部が担当している。当課ではまんが王国土佐室が担当しており、連携について現在検討しているところ。博覧会については、中心地（牧野植物園、佐川町等）をきっかけに来県いただき、県内を周遊してもらおうと考えている。現在、デジタルサイネージでは県内ゆかりの地を紹介しているので、できるだけ県内全域を周遊していただけるよう博覧会の中でも検討している。</p>
事務局	<p>養成講座について、専門的なスキルを身につけられた方の活躍の場が重要だと考えており、県史編さん事業でも同じように講座があるため、ステップアップや、活動の場を広げていける工夫等について検討していく。</p>
委員	<p>報道で、牧野博士を分かりやすくまとめた冊子が県内の小学校に無償で配布されると聞いたが、子ども達にとって、郷土への誇りを持つきっかけとなったり、植物に興味を持つという面でもすごく良い取組だと思う。</p> <p>p7 文化部活動の地域移行について、中学校の部活動の地域移行を通じて、地域住民の文化芸術に携わる裾野づくりに取り組むということにとっても注目している。学校単位での部活動の考え方だけではいけないので、幅広く、今までに取り組んでいない新たな発想も加えて取り組んでいく等、文化芸術振興ビジョンの方向性とのタイアップが非常に重要だと思う。県立施設、市町村立施設、民間の団体とを繋げ、地域移行をどう図っていくのか、成功すれば成果は大きいと思う。</p>
事務局	<p>部活動の地域移行の参考資料について説明させていただく。資料は文化庁が作成したもの。国は当初、部活動を3年で地域へ移行させる方針を示していたが、地方や中山間地域には受け皿がないこともあり、地域連携として、外部の人材を指導員という形で学校内に取り入れる等、当分の間は、地域連携と地域移行の両方で対応していこうとしている。</p> <p>背景には、教員の働き方改革や、少子化により団体で行う部活動ができなくなる等の問題がある。その問題を解決するためにも、地域の方々の協力も得ながら、部活動のあり方を考えていかなければならないと受け止めている。文化の関係だと、地域の活動と、子どもたちの活動との連携により地域の文化の振興に繋げていくことが非常に重要だと考えており、課題解決に向けて取り組んでいきたい。</p>

委員	<p>昨年は文化庁のクラブ活動に対しての補助金を出すモデル事業があり、高知県でも「中高生ミュージカル」が開催された。来年度以降は補助金が打ち切りと聞いているが、参加者や保護者の方から「校区を越えた活動が非常に良かった」との声もあった。</p> <p>県内でも、郡部にいけば学校単位ではなく、大きな単位での部活動に若いアーティストが加わり、活動が継続していくようになればいいと思う。</p> <p>(資料1) 意見1の回答に、アーティストの謝金として「1,600円程度を考えている」とあるが、準備に対しての、賃金が合っていないと思う。アーティストへの賃金はもっと考えていただきたい。</p> <p>p29 幼少期から文化芸術に触れる機会の充実は、県立施設を中心に行う取組も重要だが、地域の子どもたちが、地域の中で幼少期から文化芸術に触れられるようになるということも併せて考えていただきたい。</p>
事務局	<p>中学校や、高校の部活動支援員の謝金は低いと認識している。さらに、地域移行の議論の中で吹奏楽の団体会議費は5,000円はいるのではないかという意見もある。活動していくための費用はどこから負担するのかという点については今後検討していく必要があり、松本委員がおっしゃった補助金等も活用しながら取組を進めていきたい。</p>
	以上

(2) 意見なし